

令和4年9月22日
教育長答弁実録
(教育委員会)

(問) 県立図書館の在り方について

人生100年時代や「学び直し（リカレント教育）」への対応など、様々な課題が山積している中、図書館として具体的にどのような方向性で、どのような取組を進めていくのか、中・長期的な県立図書館の経営ビジョンや今後の在り方について、教育長に伺う。

(答)

公共図書館は、「民主主義の砦」とも言われるように、「地域の知の拠点」として、多様な利用者や住民の学びを支え、幅広い観点から社会貢献や地域発展のために寄与することが期待されております。

これまで、県立図書館では、教育に関する大綱に掲げる「一人一人が生涯にわたって主体的に学び続け、多様な人々と協働して新たな価値を創造する人づくりの実現」に向け、県民の皆様の主体的な学びを支援できるよう、社会情勢への的確な対応や魅力づくりに取り組んでまいりました。

こうした観点から、本年度は、幼稚園・保育所や学校図書館への一括貸出の強化や、子どもサイエンスライブラリーの開設に新たにに取り組んでいるところでございます。

とりわけ、子供から大人まで誰もがワクワクする体験型の図書館として、本年7月に「子どもサイエンスライブラリー」をオープンしたところ、来館者数は対前年同時期比で1.3倍、子供の本の貸出冊数は1.7倍となったところでございます。

また、来年5月の広島サミット開催に当たり、サミットで議論されるテーマについての興味・関心を促すとともに、歓迎の機運を醸成することを目的とした「サミット特設コーナー」の設置に向け、この度の9月定例会において補正予算を計上させていただいております。

引き続き、

- ・ 人生100年時代に対応したリカレント教育の充実など、社会情勢の変化への的確に対応すること、
 - ・ ワクワクするような図書館としての魅力づくり、
 - ・ 幅広い世代に対する身近で親しみやすいサービスの充実
- などの取組を具体的に進める中で、県立図書館が、「地域の知の拠点」として、多

様な利用者や住民の学びを支え、幅広い観点から社会貢献や地域発展に寄与できるように、中長期的な在り方の整理にもつなげてまいりたいと考えております。